

県下の交通事故(2月末現在)

区分	事故件数	死者	傷者
47年	834件	27人	1,202人
48年	734	26	1,043
比較	-100件 (-12.0%)	-1人 (-3.7%)	-159人 (-13.2%)



■ 第23号 ■

発行所

甲府市丸の内一丁目6-1
財団法人山梨県交通安全協会
TEL 甲府(0552)(35)2121 内線328



こどもと老人を守りましょう

春の全国交通安全運動

4月6日から4月15日まで

新入学児の事故防止に重点

◇目的
この運動は、歩行者、運転者、運送者の屋主、その他陸上交通に關係あるすべての者に交通安全思想の周知徹底をはかり、正しい交通ルールの実践を習慣づけ、交通事故防止の徹底をはかることを目的とする。

◇期間
準備期間 自三月二十七日
実施期間 自四月五日
至四月十五日

◇主催
山梨県 市町村
山梨県警察本部
山梨県教育委員会
山梨県交通安全対策本部
山梨県交通安全推進協議会
財団法人山梨県交通安全協会

◇運動の重点
歩行者事故、とくに新入学児、園児、および幼児(以下「こども」という)の事故を防止するため、つぎの施策を中心として、事故防止対策を徹底して実施する。

(一) スクール・ゾーンの定着化

(二) 特定スクール・ゾーン(昭和四十七年春、秋の全国交通安全運動実施要綱により設定された別記小学校周辺道路)については、交通規制および交通安全施設の整備と交通指導等を、重点的に実施する。

(三) 一般スクール・ゾーン(小学校、幼稚園、保育所等を中心とした一般スクール・ゾーン)については、自動車交通量等から勘案し、交通安全施設等の整備充実等その定着化をはかる。

(四) こどもと保護者に対する交通安全指導は、「こどもと保護者」に対する交通安全指導は、「とびだしません(線)運動」を展開するとともに、母親の指導を重点的に展開する。

スクールゾーン定着化

「とびだしません(線)運動」も

四月六日から十五日まで十日間、春の全国交通安全運動が行なわれることになりました。今度の運動は、歩行者事故、とくに新入学児、園児および幼児の交通事故を防止することを重点とし、そのために、昨年来実施されてきたスクール・ゾーンの定着化をはかるとともに、「こどもと保護者」運動を展開することになっていますが、その実施事項などはつぎのとおりです。

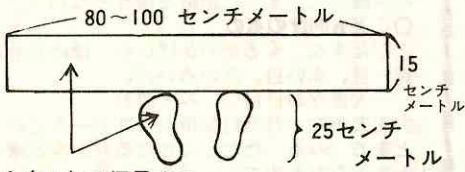
「とびだしません(線)運動」

- 1. 目的**
こどもの交通事故は、とびだしに起因するものが最も多い実情にかんがみ、春の交通安全運動を機会にとびだし事故を防止するために、一旦停止、安全確認の励行を身につけさせようとするものである。
- 2. 実施事項**
通学、通園路を中心として歩行者事故の危険度の高い交差点について、とびだしを防止するため、交差点出入口道路に「とびだしません」という歩行者用一旦停止線を標示し、歩行者は交差点道路に入る前に必ず停止線で一旦立ちどまり、左右の安全を確認する。
- 3. 推進方法**
(1) 「とびだしません」の規格、設置場所等は別記図面のとおりとする。
(2) 「とびだしません」の設置は、市町村が実施主体となり、学校、PTA、警察署、交通安全協会、自治会等の協力を得て、春の交通安全運動の準備期間中(3月27日~4月5日)にこれを行なうものとする。
(3) 設置にあたっては、事前に関係道路管理者と密接な連絡をとり、積極的な協力を得るよう配慮すること。
(4) 市町村においては広報紙、有線放送、巡回広報車等を活用し、こども、老人等を中心とした一般歩行者に対して「とびだしません」についての広報を徹底すること。
(5) 学校、幼稚園、保育園等における交通安全教室、その他交通安全教育実施の際は必ずこの運動の目的ならびに「とびだしません」の意味を教え、一旦停止、安全確認の励行を身につけさせるよう繰り返し指導すること。
(6) 警察官、交通巡視員、交通指導員等は街頭指導の際つとめて「とびだしません」の設置場所において実地指導すること。
(7) 設置位置は、標示した足型の位置に立ち止まって、左右の安全が確かめられる位置とする。

別記図面

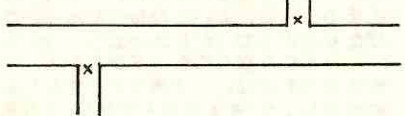
とびだしませんの規格および設置場所(位置)

(1) 規格



白ペイントで標示する

(2) 位置



ほくしない どうろのとびだし わるふさけ



推進するため、地域、職域の実態に応じて推進するものとする。

(一) スクール・ゾーンの設置は、地域、職域の実態に応じて推進するものとする。

(二) スクール・ゾーンの設置は、地域、職域の実態に応じて推進するものとする。

(三) スクール・ゾーンの設置は、地域、職域の実態に応じて推進するものとする。

(四) スクール・ゾーンの設置は、地域、職域の実態に応じて推進するものとする。

(五) スクール・ゾーンの設置は、地域、職域の実態に応じて推進するものとする。

(六) スクール・ゾーンの設置は、地域、職域の実態に応じて推進するものとする。

(七) スクール・ゾーンの設置は、地域、職域の実態に応じて推進するものとする。



特定スクール・ゾーン設定小学校

甲府市 伊勢小学校
下吉田市 穴切小学校
富士吉田市 東小学校
若草町 若草小学校

推進する機関および団体は、この運動を効果的に展開する。

(一) この運動を主唱または推進する機関および団体は、この運動を効果的に展開する。

(二) この運動を主唱または推進する機関および団体は、この運動を効果的に展開する。

(三) この運動を主唱または推進する機関および団体は、この運動を効果的に展開する。

(四) この運動を主唱または推進する機関および団体は、この運動を効果的に展開する。

(五) この運動を主唱または推進する機関および団体は、この運動を効果的に展開する。

(六) この運動を主唱または推進する機関および団体は、この運動を効果的に展開する。

(七) この運動を主唱または推進する機関および団体は、この運動を効果的に展開する。

- 富士吉田市 吉田小学校、塩山北小学校、塩山南小学校、谷村第一小学校、天保第一小学校、日下第一小学校、加納第一小学校、大月第一小学校、大月第二小学校、大月第三小学校、大月第四小学校、大月第五小学校、大月第六小学校、大月第七小学校、大月第八小学校、大月第九小学校、大月第十小学校、大月第十一小学校、大月第十二小学校、大月第十三小学校、大月第十四小学校、大月第十五小学校、大月第十六小学校、大月第十七小学校、大月第十八小学校、大月第十九小学校、大月第二十小学校、大月第二十一小学校、大月第二十二小学校、大月第二十三小学校、大月第二十四小学校、大月第二十五小学校、大月第二十六小学校、大月第二十七小学校、大月第二十八小学校、大月第二十九小学校、大月第三十小学校、大月第三十一小学校、大月第三十二小学校、大月第三十三小学校、大月第三十四小学校、大月第三十五小学校、大月第三十六小学校、大月第三十七小学校、大月第三十八小学校、大月第三十九小学校、大月第四十小学校、大月第四十一小学校、大月第四十二小学校、大月第四十三小学校、大月第四十四小学校、大月第四十五小学校、大月第四十六小学校、大月第四十七小学校、大月第四十八小学校、大月第四十九小学校、大月第五十小学校、大月第五十一小学校、大月第五十二小学校、大月第五十三小学校、大月第五十四小学校、大月第五十五小学校、大月第五十六小学校、大月第五十七小学校、大月第五十八小学校、大月第五十九小学校、大月第六十小学校、大月第六十一小学校、大月第六十二小学校、大月第六十三小学校、大月第六十四小学校、大月第六十五小学校、大月第六十六小学校、大月第六十七小学校、大月第六十八小学校、大月第六十九小学校、大月第七十小学校、大月第七十一小学校、大月第七十二小学校、大月第七十三小学校、大月第七十四小学校、大月第七十五小学校、大月第七十六小学校、大月第七十七小学校、大月第七十八小学校、大月第七十九小学校、大月第八十小学校、大月第八十一小学校、大月第八十二小学校、大月第八十三小学校、大月第八十四小学校、大月第八十五小学校、大月第八十六小学校、大月第八十七小学校、大月第八十八小学校、大月第八十九小学校、大月第九十小学校、大月第九十一小学校、大月第九十二小学校、大月第九十三小学校、大月第九十四小学校、大月第九十五小学校、大月第九十六小学校、大月第九十七小学校、大月第九十八小学校、大月第九十九小学校、大月第一百小学校。

第十三回交通安全国民総ぐるみ運動中央大会

“すべて事故を起こさない”

内藤登副会長に緑十字銀章

全日本交通安全協会の主催による第十三回交通安全国民総ぐるみ運動中央大会は、一月十八日、十九日の二日東京で開催されました。



第十三回交通安全国民総ぐるみ運動中央大会

第一日は、地域組織、職域組織、運転者、婦人、子どもの五部会に分かれて、半蔵門会館、都道府県会館、全国町村会館、日本都市センターの四会場で行なわれました。

第二日は、文京公会堂において本会議が開かれ、出席者は三千人を超えるという盛況でした。本会議には、常陸宮、同妃殿下がご臨席になり、おこしを賜わったほか、内閣総理大臣、衆・参両院議長、国家公安委員長の祝辞、外国友誼団体からのメッセージ等があり、また、前日各部会で討議された事項について、各部会の議長から報告が行なわれ、これに基づいて、大会の決議、宣言が行なわれました。

宣言

生命の安全は福祉社会の基礎である。交通事故は最近わずかながら減少しつつあるとはいえず、なお年間死者一万五千、傷者八十八万を越える犠牲者を出している。われわれはこのきびしい現実を直視し、地域、職域および家庭における人間関係を通じ、交通事故の防止に努め、もって豊かな福祉社会づくりに邁進しなければならない。ここに昭和四十八年の年頭に当り、第十三回交通安全国民総ぐるみ運動中央大会を開催して、次の事項の実践を誓う。

- 一、自動車を使用するものは、すべて事故をおこさない、事故をおこさせない、こととする。
- 二、子どもの保護育成と安全教育に努める。
- 三、老人に対し、深い思いやりをもって、交通の災禍から守ることに努める。

昭和四十八年一月十九日
第十三回交通安全国民総ぐるみ運動中央大会



昭和48年 交通安全年間スローガン

- 最優秀作 (内閣総理大臣賞)
- 運転者向けのもの
せまい日本 そんなに急いで どこへ行く
 - 歩行者向けのもの
たしかめて またたしかめて ハイ横断
 - 子ども向けのもの
ほくしない どうろのとびだし わるふざけ
- 佳作
- 運転者向けのもの
シマッタで 踏むブレーキはもう遅い
あげた手は あなたの車を信じる手
安全は心にゆとりと ゆずり合い
青だつて心はいつも赤信号
イヤイヤはあなた自身の赤信号
いそぎませんねむりませんのみません
運転者 思つてもみよ 進児の声
おっと待て 危い その距離 その速度
越されても いつも変らぬ マイペース
事故ゼロも 小さな注意の積み重ね
事故は一瞬 補償は一生
その一杯 ことわる勇気が事故を断つ
なせ急ぐ ゆっくり走る 時代です
走るより 止まる勇気があなたを守る
ベテランも 心に初心のマークつけ
老人だ！ 子供だ！ 早めにブレーキだ！
 - 歩行者向けのもの
やめようね どこでもわたる わるいくせ
あぶないよ！ 注意のひと声どの子にも
甘えてならない歩行者優先
あせらずに信号一回待つ余裕
あなたは見えても 車は見えない夜の道
あなたは子供の手を握っていますか
あぶないぞ ななめ横断 けがのもと
横断はよく見るしゅうかん 待つがまん
(山梨県警察本部交通部長 笠井耕三氏作)

項について、各部会の議長から報告が行なわれ、これに基づいて、大会の決議、宣言が行なわれました。さらに、交通功労者、優良運転者等の表彰が行なわれ、本県関係の被表彰者はつぎのとおりでした。

- 交通安全章(緑十字銀章)
山梨県交通安全協会副会長 内藤登
山梨県交通安全協会副会長 藤崎交通安全協会副会長 藤崎交通安全協会副会長 藤崎交通安全協会副会長
- 交通安全章(緑十字銀章)
富士急行株式会社 新田益三

“若い生命を守るために”

二輪車安全運転指導員を認定

交通事故の多発は、今や大きな社会問題となつています。なかでも、自動二輪車は国民の間に幅広く利用されていますが、とくに青少年層にその需要が著しく拡大されて、これら青少年による交通事故が激増し、若い生命が失われているのが現状であります。そこで、全日本交通安全協会では警察庁の指導と業界の協力のもとに、昨年中に二輪車安全運転推進委員会を設け二輪車の安全運転指導員を養成し、認定指導員に乗り出しました。この方針を受けて、全国各県に二輪車安全運転推進委員会が逐次発足し、山梨県においても、昨年五月二十四日、山梨県二輪車安全運転推進委員会を設置し、事務局を山梨県交通安全協会内に置いて、二輪車の安全運転教育を行なうことになりました。目下、指導員制度を整備中ですが、現在までに中央から認定された指導員は、つぎのとおりです。

なお、近く指導員の審査、認定を行ない、四月以降、高校生以上の二輪車安全運転教育から実施する計画です。

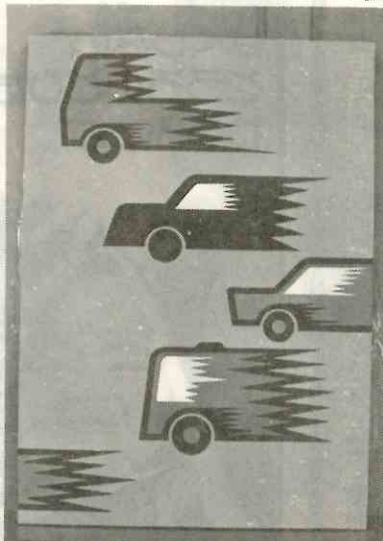
(一) 特別指導員(三名)

- 山梨県警察本部交通企画課 次席警部 太田栄造
- 山梨県警察本部交通指導課 警部 古屋哲男
- 山梨県警察本部運転免許課 課長補佐 佐藤通雄
- (二) 指導員(十七名)
- 山梨ホンダ販売K.K. 水野佳積
- 甲府ホンダ販売K.K. 望月郁雄
- K.K.ホンダ中販甲府センター 山王辰則
- ホンダS.F.関東甲府工場 藤原忠晴
- 内田正人

- ヤマハ神奈川K.K.甲府営業所 須藤美広
- 山梨県警察本部交通指導課 警部 村松孝司
- 山梨県警察本部運転免許課 課長補佐 丸内哲夫
- 山梨県警察本部運転免許課 課長補佐 丸山征明
- 山梨ホンダ販売K.K. 藤井和人
- 山梨ホンダ販売K.K. 舟田照夫
- 山梨ホンダ販売K.K. 土谷恵一
- 山梨ホンダ販売K.K. 小林康雄
- カワサキ神静販売K.K.山梨営業所 羽柴二郎
- カワサキ神静販売K.K.山梨営業所 松田源二
- 山梨自動車学校 整備課長 植松辰男



あぶない坊や お母さんは どうしているでしょうか。



安全運転

一、高速走行とハンドル

ハンドルのきぎは、一〇〇キロで走っているときは五〇キロで走っているときの四倍の割合で、ハンドルのきぎがよくなる。

ハイウェイでハンドルを切りすぎてひっくり返ったり、中央分離帯へ乗り上げたりの事故の多くは、このためである。高速走行のときのハンドル操作は、一般道路走行のときの四分の一位でよいといわれ、時計の針で五分位の角度が限度であるといわれている。

二、自動車の秒速は：自動車の一秒間の速さ

は走っているキロをメートルに読み替えて、それを四で割って一割足すと、すぐわかる。六〇キロで走っていたら、六〇メートルとし、四で割れば一五メートルになり、それに一五メートルの一分の一、一五メートルを足せば、一六・五メートルとなる。五〇キロなら一三・七五メートル、四〇キロなら一〇・二五メートル、三〇キロなら七・五メートル、二〇キロなら五メートルということになる。

は走っているキロをメートルに読み替えて、それを四で割って一割足すと、すぐわかる。六〇キロで走っていたら、六〇メートルとし、四で割れば一五メートルになり、それに一五メートルの一分の一、一五メートルを足せば、一六・五メートルとなる。五〇キロなら一三・七五メートル、四〇キロなら一〇・二五メートル、三〇キロなら七・五メートル、二〇キロなら五メートルということになる。



クルマがなければ餓死するといわれるロサンゼルス郊外の道路環境。片側複数以上の車線は日本の比ではない。

アメリカの交通

県警交通企画課次席 太田 栄 造

アメリカは、こと自動車交通に関しては、その歴史と伝統に支えられている。自動車王国の名にふさわしい交通秩序が確立されている。個々の問題をとらえるなら、ニューヨークのように歩行者が赤信号を無視したり、日本とは比較にならない道路事情の中にも渋滞が悪化、また駐車対策にも頭を痛めているなどの悩みはある。しかし、先進国として新しい時代の交通についても実験的な試みは、積極的に進められている。自動車量にみると、日本も近い将来、アメリカ

と肩を並べるクルマ社会になるだろう。したがって交通秩序やその体系を整備するという質的な面からアメリカを見つめ、その良し悪しを選別し日本に取り入れることこそ求めらるべきクルマ社会への対処だろう。短期間の視察だけに、その相違が浮き彫りにされ、行政サイドの反省材料も含め、極めて得るところが多かったが、極端な言い方をすれば、日本のドライバーはオモチャをもらった子供が、うれしくて跳び回っている状態であり、歩行者は扱えないオモチャをもらった戸惑い、さらに対策は適当なオモチャを探しあぐねる親に似ている。第三者的な酷評かもしれないが、そんな印象が強く、それだけに交通については大人になるための反省をしなければならぬと思った。規制に対しては、完全に従う

道路事情そのものは比較にならないし、立体化は別にしても片側二車線以上が当然という道路事情をまねることは、どだい無理だ。しかし、ドライバーのマナーを向上させるとか、きめの細かい安全対策は大いに参考にするべきである。私が見た限りではドライバー

パリのマナーは驚嘆すべきものであった。速度や一時停止規制に完全に従う、車間距離をとる、車線変更しない、交差点では直進車が優先し左折(日本では右折)優先しない、前車が止まるとくすくすしたり、歩行者が赤信号を無視してもクラクションはほとんど鳴らさず、ドナリたてない、雨が降ると後車のために尾灯をつけるなど。ドライバーは優雅な運転をしている。もちろん無謀な運転をして事故を起こす者もいるが、車の絶対数から見れば少ない。ニューヨークの歩行者は警察官がいても平気で赤信号を無視する。いただけない光景だが渡る前の左右の確認は励行している。また横断歩道外の横断は極めて少なく安全に配慮している。一方ニューヨークのタクシー運転手は「無事故運



ヒューストンとダラス間のガリフハイウェイと昼夜の差をつけた速度標識。ハイウェイの施工そのものは日本の高速道路の方が勝っているように思える。

転は運転者が規則を守り、周囲の状況に目を配ることだけだ。安全施設は二の次に述べていた。発言の

れ国民性とも思えるドライバーのマナーは、日本の土壌の中では育たないのか、と悲しくも思った。

優雅なドライバー

安全対策もがっちり

裏には高額の賠償金を恐れていることや合理的な考えに立っていることも見逃せないが、理由はともあ

理由はともあれ大方のドライバーが人命尊重、人命第一主義で運転していることと事実である。これは、そ

り、観光地でゴミを捨てる人に会わなかったし、肩が触れあえば「すみません」と声をかけ合い、何事にも「ありがとう」という。表面的かもしれないが極めて気持ちよい社会生活が見られる。これらの態度がひいては交通モラルにつながっているように思う。

安全対策はドライバー側に立って、くどいくらいの標識と、きめの細かい配慮がなされてきた。カーブでの具体的な速度指定、標識の連立、停車禁止場所や路面へのカラフルな徹底したマーキングなど、行政サイドとして反省しなければならぬものが多い。同時に交通の円滑化のための一方通行、左折禁止は、常識的な対策であり、ドライバーも居住者も当然であると受けとめている。



駐車容量を高めているリフト式の駐車施設(ワシントン)広いアメリカだが考えたものである。



サンフランシスコで見た自転車運行帯のマーキング。アメリカでは自転車が見なおされているが、レジャーとしての利用度が高いようだ。

の背景が高い水準のモラルで裏打ちされているからともいえる。小さいことだが歩きながらたばこをのんだ

安全対策はドライバー側に立って、くどいくらいの標識と、きめの細かい配慮がなされてきた。カーブでの具体的な速度指定、標識の連立、停車禁止場所や路面へのカラフルな徹底したマーキングなど、行政サイドとして反省しなければならぬものが多い。同時に交通の円滑化のための一方通行、左折禁止は、常識的な対策であり、ドライバーも居住者も当然であると受けとめている。



太田 栄 造 氏

このような中でも、朝夕のラッシュの渋滞は悪化している。ロスでは三十分から一時間くらいは渋滞が恒常化し、結果的には市民の足が奪われる事態になりつつある。これらに対処して長期的な観点から新しい分野の交通が開拓されている。ワシントンではバスの優先を確保するために、バスの底部に電波発信機を取り付け、コンピュータモニターで信号機をコントロールしてバスの円滑化を試みる実験が、今年から三年計画で始まった。ロスのダウンタウンでは三十分の低料金で快適なミニバスが運行され、サンフランシスコ隣のオークランドでは地下のB・A・R・T鉄道(湾岸鉄道)が一部完成し運行し始めた。じゅうたん敷きの客車にはうらやましい限りであった。

しかし問題は同鉄道の技師が述べていたように、果たしてそれが自動車に代わるものとなるか未知数だとのこと。なかなか難しい問題のようだった。

教育の重要性
アメリカには政治的な悩みもあるだろうし、映画「ゴッドファーザー」のようなマフィアの実態もある

ワシントンのアーリントン墓地のバス駐車施設。歩道に切り込みがあるのはバスが停車したとき前のドアから降りる客が車道に降りなくてすむようになっている。



スクールゾーン内のマーキング(ロサンゼルス郊外)マーキングはカラフルで大きく見やすい。

脱線したが自動車王国を見るにつけ、日本は「これからだなあ」との印象を強く受けながら羽田の土を踏んで、タクシーに乗った。首都高速の運転ぶりにひびひやした。アメリカの交通を今さらながら、うらやましく思った。

太田氏は十月二十八日から十一月十七日まで警察庁、アメリカ交通事情視察団の一員としてアメリカ、カナダを視察した。

とされる。しかし、それは一般的な社会生活の中では無縁のようにすら見えた。社会生活の中で自分の行動が他人とのかかわり合いの中で行なわれる限り、他人に迷惑をかけるなどという自覚と行動がアメリカの中に確立しているように思う。それを国民性と一概に片付けることは近視眼であろう。そこには本来の意味の民主主義が定着しているともいえる。

教育の重要性は、そのへんにあるのではないか。警察官の立像がなければ交通事故防止ははかれないようでは世の中がぐるぐる回っている。全般的なモラルの向上が結果的には交通モラルの向上につながり事故防止となるだろう。

脱線したが自動車王国を見るにつけ、日本は「これからだなあ」との印象を強く受けながら羽田の土を踏んで、タクシーに乗った。首都高速の運転ぶりにひびひやした。アメリカの交通を今さらながら、うらやましく思った。

とされる。しかし、それは一般的な社会生活の中では無縁のようにすら見えた。社会生活の中で自分の行動が他人とのかかわり合いの中で行なわれる限り、他人に迷惑をかけるなどという自覚と行動がアメリカの中に確立しているように思う。それを国民性と一概に片付けることは近視眼であろう。そこには本来の意味の民主主義が定着しているともいえる。

第七回交通安全写真コンテスト募集要綱

締め切りは八月三十一日

交通関係の写真撮影を通じて、交通問題に対する理解と関心を高めるとともに、この写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓発指導に資するた

◆題名 一般的に交通の場面を撮影したもの(道路交通の状況、よい交通、悪い交通、交通安全施設、交通安全運動等の状況を撮影したもの。)

◆応募資格 制限なし。

◆応募材料 第一節 一般的に交通の場面を撮影したもの(道路交通の状況、よい交通、悪い交通、交通安全施設、交通安全運動等の状況を撮影したもの。)

◆応募規定 (1)応募作品は未発表のもので、他に発表予定のないものに限り、(撮影の時期は問いません。)

◆応募作品には必ずネガを添えて提出してください。(ネガの提出のないものは、入賞することはありません。)

◆応募作品およびネガは返却いたしません。

◆応募作品の版権は、主催者に属するものとします。

◆応募作品の裏面には、必ず応募票をはってください。

◆応募票には、(1)住所、(2)職業、(3)氏名、(4)年齢、(5)電話番号、(6)作品の題名、(7)写真技術のたいせつなことが、交通安全思想の高揚に役立つ内容を重視いたします。

◆主催 財団法人山梨県交通安全協会

◆後援 山梨県警察本部、山梨県社会部記者会、山梨県交通安全母の会連合会

◆協賛 山梨県写真材料商業協同組合、富士写真フイルム株式会社

◆賞状 山梨県交通安全協会賞

◆賞金 二万円

12
60
120
9
2560 (4)
30240
6400
32400
120
5
3600



惨！人も牛も 県警本部横内正重氏撮影 (第6回コンテスト入賞)



やめよう飲酒運転

お母さん熱心に研修

交通事故防止は家庭から

山梨県交通安全母の会連合会では、二月十九日午前十時から、甲府市丸の内三丁目、山梨県教育会館大ホールにおいて、第一回役員研修会を開催しました。会場には、全県下の交通安全母の会から三百名の役員が集まり、満員の盛會裡に、終始熱心な研修が行なわれ、受講者全員に、警察本部から、こどもの交通安全教育指導員としての認定証が交付されました。

今回の研修は、警察本部が目下主催し、推進中の、「交通安全県民総講習運動」の一環としての意味もあるもので、警察本部と山梨

県交通安全協会がとくに力をこめてこれに協力したため、研修内容も充実し、好評でありました。

このような研修は、今後さらに繰り返して行なうほか、各地区ごとに母親の交通安全研修会が開かれることになっていきます。

研修会は、浅川くまの会長、村上健警察本部長、中村太郎山梨県交通安全協会長のあいさつのおと、一、歩行者、自転車の交通ルールについて。

黄色い腕章を贈る

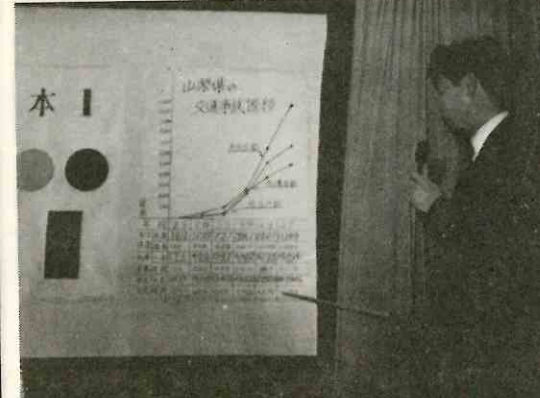
新入学児童全員に

山梨県交通安全協会では、ことしも山梨県警察と協力して、県下の新入学児童全員に、黄色い交通安全腕章を贈ることになりました。これは、新入学児童がここの腕章をつけることにより、自覚と注意心をよび起こし、また、運転者や一般通行者の方々に、黄色い腕章の子どもには特別の注意と保護をお願いしたいとの念願によるものです。ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、甲府市内の分については、例年のとおり富士銀行が作って配付いたします。



熱心に受講するお母さんたち (NHK提供)



県内の交通事故の状況を説明する太田次席警部 (NHK提供)

四月.....
希望に燃えた新入学の季節、いきいきとしたこどもの姿に父親がもっとも責任を自覚するとき、交通事故の不安がフッとよぎるいまの現実

四月.....
装い新たに登場する
協栄生命に
ご期待ください。
T L E 0552 (22) 4836 (甲府支社)

運転免許証の「誕生日更新」制度発足

現在お持ちの免許証は、有効期間が変更になりません。しかし、この間は三年より短くなりました。そのつぎの更新日から、三回目の誕生日まで完全に三年となりま

また、この改正規定実施の日(四月一日)に、すでに免許を持っていた者は、同日以後に初めて更新を受けるまでは従来して扱われます。

なお、誕生日が二月二十九日であるときは、二月二十八日であるとみなして扱われます。

さらに、笠井交通部長の司会による交通問題の質疑応答があった、一日間の研修を終了しました。

新規購入 映画の紹介

このたび、つぎの映画を購入しました。ご活用ください。

一、「お母さま、あなたの力をお貸しください。」十六ミリ、カラー、二十五分、婦人向き。

この映画は、とび出しその他のこどもの交通事故の特性を、記録的に取りあげて、わかりやすく説明するとともに、こどもの交通事故防止対策を町ぐるみで推進し、大きな成果を収めている実例を紹介している点から、母親に対する交通安全教育映画とも言うべきものでもあります。

二、「トンポになったヤッちゃん」十六ミリ、カラー、十五分、こども、幼児向き。

この映画は、仲間の人気者で、あべれん坊のヤッちゃんの日々の行動を通じて、正しい横断のしかた、車の直前直後の横断や、路上へのとび出し、路上遊戯など危険な場面を漫画で示し、ヤッちゃんを漫画で追って、道路にとび出し、ついに死亡したことから、どういう行動がいけないかを、わかりやすく教えています。